吉川市文化芸術推進審議会

令和７年度文化芸術事業実績報告書

令和８年８月

目　　次

主な文化芸術事業の実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

文化芸術を多面的に活用した取組実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

【生涯学習担当】事業番号１

<table>
<tr><td>１ 事業名</td><td>生音コンサート（隔年開催）</td></tr>
<tr><td>２ 事業期間</td><td>平成２８年度　～　令和７年度</td></tr>
<tr><td>３ 事業概要</td><td>音楽をより身近な場所で見て、聴いて、感じることができるコンサートを開催することにより、音楽と市民との幸福な出会いを創り出し、吉川市の活力へつなげていく。</td></tr>
<tr><td>４ 計画*の位置づけ</td><td>基 本 目 標：文化芸術活動の推進
施策の展開：（５）発表・鑑賞機会の充実</td></tr>
<tr><td>５ 実施結果</td><td>【決 算 額】７１５千円
【実施時期・実績】
・アーティスト：石上真由子　氏（ヴァイオリニスト）
・伴　　奏　　者：新居由佳梨　氏
<table>
<tr><td></td><td>日時</td><td>場所・内容</td><td>児童数・来場者数</td></tr>
<tr><td rowspan="4">アクティビティ
（学校等でのミニコンサートやワークショップなど、地域との交流を図る事業）</td><td>２月１９日（木）
10：30～11：15</td><td rowspan="4">美南小学校
体育館</td><td>６１名</td></tr>
<tr><td>２月１９日（木）
11：25～12：10</td><td>５８名</td></tr>
<tr><td>２月２０日（金）
10：45～11：30</td><td>３０名</td></tr>
<tr><td>２月２０日（金）
11：40～12：25</td><td>６２名</td></tr>
<tr><td>コンサート</td><td>２月２１日（土）
14：00～15：50</td><td>吉川市中央公民館
ホール</td><td>３２４名</td></tr>
</table>
※前回（Ｒ５）コンサート来場者数：２１９名
※来場者アンケートは次頁参照</td></tr>
<tr><td>６ 工夫した取組</td><td>・イベント宣伝の強化
① 市役所各課窓口に三角ポップを自作して設置
② 駅及び商業施設へのポスター掲示
③ 図書館での関連書籍の企画展示
④ 市民文化祭との連動（文化祭で実施したスタンプラリーの景品に設定、文化祭実行委員会での広報）
・チケット購入方法の拡充（電子申請による販売を追加）
・学校給食との連携（コンサートで演奏予定の楽曲に関連して、ベートーヴェンの好物と言われている食材（マカロニ、チーズ、赤ワイン）を使った学校給食を市内小中学校で提供）</td></tr>
<tr><td>７ 今後の課題</td><td>・世代間で参加に偏りが見られるため、幅広い世代の参加に繋がる方策の検討</td></tr>
<tr><td>８ 備考</td><td></td></tr>
</table>

＊ 計画…吉川市文化芸術推進基本計画

アンケート（回答１８５名／３２４名中）

◆年齢

20 歳未満	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 歳以上	無回答
7 人 (3.8%)	3 人 (1.6%)	3 人 (1.6%)	18 人 (9.7%)	24 人 (13.0%)	30 人 (16.2%)	99 人 (53.3%)	1 人 (0.6%)

◆満足度

満足	まあ満足	少し不満	不満	無回答
158 人 (85.4%)	12 人 (6.5%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	15 人 (8.1%)

◆良かったという意見

演奏自体が良かった等	44 件	アーティストの解説が良かった等	41 件
近場で本格的な芸術に触れられて良かった等	4 件	鑑賞しやすい入場料だった等	4 件
子ども達への体験機会が良かった等	7 件	次の開催への期待等	11 件

（主なもの）

・説明が多くてとても聞きやすく、楽しみやすかった。聞き所が分かると、初心者には音楽に入りやすいと感じた。ファリャの「スペイン舞曲第１番」は確かにオーケストラなどで聞きたくなる曲調だと今日の演奏を通じても感じられるくらい楽しめた！
・この価格でプロの演奏家の方の演奏が聞けてありがたいです。石上さんのヴァイオリンの素敵な音色、新居さんのピアノも素敵でした。語りも色々学びがありよかったです。
・構成と上手なお話が分かりやすくてよかった。地元でよい演奏が聞けて楽しめた。面白いコンサートだった。
・ヴァイオリンコンサートを観るのははじめてでした。１曲１曲もとても素敵でしたが、曲の間の石上さんの解説もとても面白く勉強になり、あっという間の９０分でした。
・これからも地域の活性化に向けて、今回のような芸術事業を行ってくださると嬉しいです。
・美しい音色の魅力はもちろんですが、曲の背景についてのお話がとても興味深く楽しいひと時でした。ありがとうございます。ぜひ小中高校生にも、もっと高頻度でこのような機会を与えてあげていただきたいです。
・昨年のゴールデンウィークで開催された子どものクラシックコンサートで石上真由子さんの演奏を聴かせていただき釘付けになりました。今回吉川で聴ける機会と知り、楽しみに参りましたが、演奏の素晴らしさに加え、チャーミングで明解な解説もとてもよかったです。また他の演奏会にも伺いたいです。また吉川での開催にも期待しております。
・吉川市民ですが、初めて中央公民館ホールに入りました。公共ホール音楽活性化支援事業ということで、これからもプロの演奏家の演奏会を聴く機会を増やしてほしいです。石上さんのヴァイオリンもトークも、新居さんのピアノもすばらしく充実したコンサートでした。
・生音は良いですね。お客さんもいっぱい来ていたと感じます。市民として、ぜひこのような機会を

増やしていただけると嬉しいです。１，０００円というチケット代も非常に安いため、この点も大きな集客につながっているのでしょうか。

・プロの生の演奏を鑑賞する小学生の子どもがいい経験になりました。石上さんのトークも分かりやすくて良かったです。ありがとうございました。

・作曲家、曲の紹介も興味深いお話で、聞かせていただきました演奏も深い音色で素晴らしかったです。家から歩いて来られるホールで一流の演奏家の演奏を聴くことができて良い休日になりました。

・石上さんの演奏、新居さんが寄り添い、お二人の充実した音楽とお話とても楽しめました。石上さんはトーク力も素晴らしい。美南小の子たちもきっと良い経験になったことでしょう。

・とても素晴らしかったです。トークも面白くて分かりやすかった！！年に１回（または季節ごとに）このようなコンサートがあると嬉しいです。

・演奏者が解説しながらのコンサートはあまりないので、楽しみながら聴くことができました。また来年も素晴らしいコンサートを企画してください。

・石上真由子さんはとても明るくて、一曲一曲、曲の説明を音楽に詳しくない私たちにも分かりやすいように説明してくださり、演奏もピアノの新居由佳梨さんとともにとても息ピッタリなキレイな繊細な音色を奏でてくださり、とてもすばらしかったです。一人で和音を弾いていてすごく音が広がっていてすごいです！美南小にも行かれ、糀家のなまず料理も召し上がっていただき、吉川にとても浸ってくださってとてもありがたかったです！１，０００円のチケット代でよかったのでしょうか？また演奏しに来てください！！どうもありがとうございました。

・曲についての解説が詳しく、楽しく聞かせていただきました。クラシックはとにかく堅苦しくなりがちなので、石上さんのように背景を話していただくと曲が身近に感じられます。小学校で音楽鑑賞会をしていただいたとのこと。子どもたちのやわらかい感性が音楽によってのびのびとしていけることに希望を感じます。

・極上のコンサートでした。石上真由子さんの説明、お話がとても分かりやすかったです。新居さんのピアノも素敵でした。またお二人を呼んでいただきたいです。１，０００円の破格で申し訳ありません。

・説明も楽しかったので演奏も楽しめました。クラシック以外も聞いてみたいです。すてきな時間をありがとうございました。

・背景などのお話（説明）があり、改めて楽しく曲を聞くことができ大満足でした。吉川の多くの子どもたちにも聞かせたいコンサートでした。

・一曲ごとに解説や背景などを話していただき、とても分かりやすく、しみ入るように鑑賞することができました。こういう企画をぜひ今後も続けてくれると嬉しいです。

・作曲家の話をしてくださり、曲のイメージがわきました。知らない曲も楽しむことができました。長男が２日前に美南小で石上さんのヴァイオリンと話を聞いて帰ってきたのですが、音楽だけでなく、医者を目指したことに感心していました。

◆その他意見等

・自治体主催でやるからこそこの価格、そして公民館で開催できているという実態であるならば、いつまでも自治体主催でやらないといけなくなります。自治体職員の負担も考えるなら、「市民主体でこのような機会の創出」を考えていく仕組み等（新規施設、補助金の補助）もご検討いただけると良いのではないでしょうか。
・今回はたまたま文化祭の抽選で当たり、機会を得た。広報誌でみる機会が多い。元々は、転居前が上野桜木で文化施設が多く、情報を得られた。今後も広報誌、ネット等を見るようにしたい。よいきっかけを作っていただき、感謝しております。
・コンサート情報について、ホームページでも詳しく紹介されていると良いと思います。
・ホールの質も、もっと良くしてください。

［ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨ］





［ｺﾝｻｰﾄ］





【生涯学習担当】事業番号２

１ 事業名	演劇プロジェクト（演劇公演）
２ 事業期間	平成２９年度　～　令和７年度
３ 事業概要	年齢、性別、国籍、障がいの有無に関わらず、多様な参加者が集まり稽古を重ね、演劇公演を行うもの。第４回公演より「ＮＰＯ法人埼玉情報センター」との共催により市民とプロ共演の舞台を実施。公演の参加者は、演劇公演だけでなく市の事業へ参加するなど、貢献的な活動を行う。
４ 計画*の位置づけ	基 本 目 標：文化芸術活動の推進 施策の展開：（３）あらゆる市民と多様な分野における文化芸術活動の充実 （５）発表・鑑賞機会の充実
５ 実施結果	【決 算 額】３，２６９千円 **公　演** 【実施時期】稽　古：７月…市民９日間 ８月…市民１６日間/プロ１６日間 （稽古参加率：９７％程度） 公　演：令和７年８月２２日（金）プレビュー ２３日（土）２公演 ２４日（日）１公演 【事業実績】来場者：４０７名（プレビュー公演含む） ※別途、アーカイブ視聴者２７名 出演者：市民等１９名・プロ７名　計２６名 (内訳)大人：１２名、小中学生：７名 (新規)大人：４名、小中学生：５名 市民等スタッフ：５名 (内訳)広報物スタッフ：２名（うち教育センター利用者１名） 舞台関連スタッフ：３名（うち障がい者１名） ※来場者アンケートは次頁参照 **ワークショップ** 演劇の台本の読み方や書き方を学び、実際に演劇の短編台本を創作する。 【実施時期】令和７年１２月１３日（土） 令和７年１２月１４日（日） 令和８年　３月　８日（日） 【事業実績】参加者：２１名 （内訳）大人：１８名、小中学生：３名 （新規）大人：６名（うち１名文藝よしかわ受賞者）

６ 工夫した取組	**公　演** ・企業協賛を通じた事業運営の安定化及び集客増加 ・新たな参加形態（スタッフ）による事業の多様性の実現 ・イベント周知の強化 ① 市役所各課窓口に三角ポップを自作して設置 ② 商業施設内での前年度動画の上映 **ワークショップ** ・市の文芸活動の普及向上を図る『文藝よしかわ』との連動を図るため、小説・随筆部門の受賞者へ個別周知
７ 今後の課題	・「多様な参加者」の出演について、課題の把握と改善案の検討。 ・市民にとって演劇を身近に感じられるハードルの低い参加の場の創出。
８ 備考	

＊ 計画…吉川市文化芸術推進基本計画

演劇公演来場者アンケート（回答２５６名／４０７名中）

◆満足度

満足	まあ満足	少し不満	不満	無回答
206 人 (69.8%)	50 人 (17.0%)	5 人 (1.7%)	0 人 (0.0%)	34 人 (11.5%)

◆良かったという意見

ストーリーや演出が良かった等	94 件	出演者の演技、出演者が多様で良かった等	65 件
演劇を鑑賞する機会が得られて良かった等	40 件	プロとの共演が良かった等	20 件

（主なもの）

・プロの方と素人の方の公演。みなさん上手でビックリしました。声も大きく、ストーリーも良かった。笑いもあり、あっというまにおわりました。
・とても難しいテーマを明るく分かりやすく演劇にしていたと思いました。子供達がみんな上手。プロと市民の違いが分からないくらいの人もいた。
・自分も参加したいと思わせてくれた！良いものを観せて下さってありがとうございます。
・皆様、声が良く出ていて、演技も上手でした。所々で面白い所があり、あきずに観ていました。子供達は元気でとてもかわいかったです。みなさんそれぞれキャラが立っていました。
・ストーリーに引き込まれ、劇に見入ってしまいました。最後に考えさせられる所があり、心に残りました。プロの方、市民の方の垣根なく、それぞれの魅力を感じる素晴らしい舞台を観ることができ、とても良かったです。
・市民の方の演技も素晴らしく、熱の込もった演技にとても感動しました。本日は楽しませていただきました。

・面白くて、楽しいワクワクする舞台でした。自分も演技したくなりました。アクションの迫力がありました。
・アクションが迫力あり、面白かった。平等とは何か？大事なものとは何か？いろいろと考えさせられる内容でした。
・出演している皆さんが生き生きしていたのが印象的でした。とても温かでした。
・地域の方とプロの役者が一緒に作品を作っているのが素敵だなと思いました。物語もすごく面白かった。
・出演者が楽しそうに演劇をしているのでこちらも楽しい気分になり観ることができました。
・プロの方、市民、子どもたちそれぞれの立場で練習をしてすばらしい作品だったと思います。
・まずお話がとても面白かったです。テーマとしては不変の、とてもストレートにぶつかってくる物語でしたが、押しつけがましくなく、それぞれが考えるものとして胸に響きました。特に、子どもたちがこのホールの中で物おじせず堂々と台詞を言っていて生き生きしてました。お稽古をたくさんたくさんやってこられたのだなと思って感心しました。一つ一つ台詞が生きている感じがしました。面白かったです。
・当初はあまり演劇に興味がなかったのですが、毎年見ていくと面白さを感じことができ、今では毎年楽しみにしております。近場でプロの方の演技を見ることができ、内容も面白かったので、子ども達も連れて行って見ることが恒例です。
・とてもおもしろかったです。テンポ良くかわされるセリフ。皆さんの声も通って聞きやすかった。テーマも自然のことからいろいろと盛り込まれてましたね。プロの方から高齢の方、子供達も皆さんが楽しそうで良かったです。
・プロの演者と市民が短い期間で素晴らしい一体感をつくり上げたと思う。
・とても面白かったです。子どもから高齢者、若者、プロ、全てがうまく連携して見ごたえのある作品でした。ストーリーも、生き方、多様性など考えることができるもので良かったです。本当にすばらしい取組みですね。今後の作品も見にいきたいです。
・子どもも楽しく見ていて歌もあってあっという間でした。ストーリーも分かりやすく、笑いもあって良かったです。
・年々市民のみなさんの演技力がパワーアップしていっているように感じました。今回はプロの方達との一体感も相まってとても迫力のある内容でした。ストーリーもすごく面白くて、最後の歌もすごく良かったです。また来年も楽しみにしています。
・子どもと一緒に楽しめる内容で良かったです。市民の参加する演劇がどんなものかずっと興味がありましたが、クオリティも高くひきこまれて楽しめました。
・最後まで引き込まれて、時間がたつのがあっと言う間でした。ストーリーも楽しめましたが、アクションやセリフの掛け合いも面白かったです。歌のシーンも動きがあり、会話ならではの一体感を感じられました。
・市民のみなさんがとても楽しそうに演じておられ、とても良かったです。とても楽しい時をありがとうございました。
・それぞれの立場で、深く考えさせられる演題だったと思います。当たり前の世の中を動物たちの会話を通して、くつがえすことができる。或いは、変えることができるエネルギーを自分たち自身が持つことが重要だと感じました。プロの俳優さん方の声量、動作、動物特有の所作、動きなどすば

らしかったです。又、市民の方々もそれに引っぱられてすばらしい動き、演技でした。
・とても楽しそうに演劇をしている姿を見て、こちらもしぜんと笑顔になりました。
・初めてこのような公演を見ました。出演者の皆さんがとてもいきいきとしてて大変よかったです。また機会があったら見てみたいです。子供達が元気で良かった。
・とても良かったです。たくさんの人、子供達に見てほしいと思いました。
・人生で初めて演劇というものを鑑賞しました。すごく感激しました。とてもいい経験になり、自分も演劇に興味をもちました。
・子どもたちの明るい様子、会場が一体となってみんなで楽しめる雰囲気がとても良かったです。元気がでました。
・あっという間の 75 分でした。ストーリーだけでなく、アクションや歌にも引き込まれ、何度観ても楽しかったです。プロの方と市民の方がそれぞれの魅力を発揮されて、一つの舞台を作られており、とても素晴らしく心に残りました。
・とてもエネルギッシュで市民の人もプロの人も素敵でした。話の内容もおもしろかったです。来てよかったです。
・良い意味で市民の方とプロの方の差があまり感じられず、みなさまの熱演がスバラシかった。子供たちの活躍が◎。答えを出さないオチがよかった。
・毎年観賞していますが、年々すばらしい企画になっています。音響、照明もよく出来ています。ストーリーも良かったです。
・6 歳の子も集中して観ていました。知っている小学生が二人いたので探しながら楽しそうに見ていました。フクロウのフクちゃんにも和んでいました。吉川で本格的な演劇を子どもと観ることができて、いい思い出ができました。
・光葉とは何なのか…大人でも簡単に答えを出せない問いをストーリーに引き込まれながら考えさせられました。(光葉はお金やイイネや色々考えられますね)。プロの方、市民の方、皆様がイキイキと楽しく演じられており、観客の私まで元気や力を頂いたように感じました。アクションや掛け合いなど、笑いもあり、あっという間の時間でした。またの機会を楽しみにしております！
・役者さんたちが楽しそうに演じていて観ていてこちらも笑顔になりました。内容も子どもたちにとってこれから必要な内容というか自分で考える必要性を感じることができる作品でした！
・考えさせられる内容だった。肉食動物と草食動物の戦いが迫力があった、子供たちが元気があり良かった。市民とプロが一緒の舞台を作るってすばらしいと思いました。
・想像以上に見ごたえのある舞台でした。観に来て良かったです。
・すごく内容のある演劇で、いろんな問題、どう生きるかを問いかけていると思います。市民参加のすばらしい演劇でした。
・子供のお友達が出演しているので毎年観に来ています。今までの内容とちがった感じでおもしろかったです。プロの出演者も出るので毎年たのしみに見ています。
・ふだん演劇を見る機会があまりないのでとても新鮮で感動しました。子供たちが生き生き輝いていてとてもステキな劇団だなと感じました。また観にきたいです。
・子供達もみんないきいきとして、がんばっている姿に感動しました。また、来年も楽しみにしています。
・社会問題もまじえて演出もよかったです。子どもからお年寄りまでとってもがんばっていてよかっ

たです。楽しませてもらいました。

◆その他意見等

・作品の展開的にもう少し合間のエピソードや終盤の部分を深く描いてほしかったです（尺を長くするのも難しいでしょうけど…）。子役の方や市民キャストそれぞれに見せ場を作るのって大変ですよね。皆様輝いていたと思います。
・とても良かったです。アクション迫力ありました。市民の方、声が良く出てる。お金の話になるのはびっくり。パンフレットに役名書いてほしい。
・子供たちに見せたかったのか？そうだとしたら、最後に１つの回答を見せる台本の方がよかったのでは。市民の方たちの熱演はすばらしかった。
・ストーリーが自分たちで作っていくという終わり方もよかったです。脚本家さんの想像する未来、話の行く末を見たかったなという気持ちもあります。
・役者の方々の声がすてきでした。アクション、ダンスは見応えがあり、お金を払う価値があるものでした。楽しかったです。子どもたちの活躍すてきでした。「焼肉定食のＴシャツの子」、鳥役の子たち思わずかわいくて笑ってしまう…だからこそ汚い言葉のセリフにはすごくがっかりでした。内容としては観客に「考えさせる」ことが目的なのかなと思いましたが、作者さんの考えも知りたかったです。私は最初のライオンの母子の会話が印象に残っていて「名前の大切さ」を語るシーンは心に残りました。でも結局ライオンのお母さんは主人公のことを忘れてしまったのでそこは悲しかったです。
・とてもエネルギーを感じた。テーマも良かった。でももう少し意味が分かると良いと思う点があった。また公演を観たいと思いました。
・ストーリーがふくざつで小さい子にはむずかしいかもしれません。あと、もう少しすずしい時期（文化の日頃）になれば、たくさんの人が見に来ると思います。

［演劇公演］





［ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ］





【文化財保護担当】事業番号１

１ 事業名	「令和７年度　吉川市の文化財企画展」の開催
２ 事業期間	令和２年度　～　毎年度継続
３ 事業概要	【目　的】市の文化財及び歴史資料を展示し、市民に広く周知・公開することにより、文化財の保存及び活用に関する理解を深め、郷土愛の高揚を図る。 【会　場】市役所１階　コミュニティルーム 【テーマ】戦後８０年 平和祈念展　－資料から考える平和－ 【参考資料】図録を作成し配布した。
４ 計画の位置づけ	基 本 目 標：１　地域の歴史・文化の継承と活用 施策の展開：（１）伝統文化・歴史の保存と継承、活用
５ 実施結果	【決 算 額】１千円　※別に、図録の印刷によるコピー代があり 【実施時期】令和７年９月２６日（金）～１０月１日（水） 午前１０時～午後４時３０分 【事業実績】来場者：２４８人
６ 工夫した取組	(1) 開催の企画の段階で、市内に残された戦争関連資料が少ないため、市外の資料も展示していくことを考えて検討を進めた。 (2) 資料実物を展示し、資料の説明文をつけてわかりやすい内容とするように努めた。 (3) 資料の説明文の作成に際し、他団体が作成した図録や参考図書を確認し、わかりやすく簡潔な説明文とした。 (4) 図録を作成し配布することにより、来場者が持ち帰って自宅等でゆっくりと内容を見ていただくこととした。 (5) 出征のぼりについては、市内現地調査やインターネットでの調査により、ご遺族の方、またのぼり製作者を特定することができ、その結果細かい内容の説明文を作成することができた。 (6) 監視も含め、資料の説明員として職員３人を配置した。
７ 今後の課題	・今回、戦後８０年という節目の年に企画展を開催した。このテーマに関する企画展を今後いつ開催するか決めていない。 ・今回の企画展の開催にあたり、戦地にいる親から子に宛てた手紙類を拝見し、その一部を展示した。手紙に書かれた文字が読みづらく現在少しずつ文を活字化している。今後、展示する機会があるときに、公開していきたいと考えている。
８ 備考	・当担当の基本姿勢としては、市民の方が実物の資料（史料）に触れ（見て）、地域（現地）に立って地域の方に話を伺い、これまでの歴史や文化を知っていただくこととしています。

「令和7年度　吉川市の文化財企画展」アンケート集計結果　（合計 45 枚）

1　年代を教えてください

年代	□小･中学生　3 人　□高校生･大学生･20 代　4 人　□30･40代　10 人 □50･60代　18 人　□70代以上　10 人

2　これまでのご見学について

今回6回目の開催です。来られたことはありますか？	□ある　14 人　□初めて（見に来た）　25 人 □初めて（たまたま市役所に来たので）　6 人

3　文化財 企画展「戦後８０年 平和祈念展　-資料から考える平和-」について

感想を教えてください。	□見学して大変よかった　38 人　□よかった　7 人　□普通　0 人 □あまりよくなかった　0 人　□よくなかった、わかりづらかった　0 人

4　展示資料から、気づいたこと、感じたことなどありましたらご記入ください（自由意見）。

・今後、資料の保存方法が問われることになる。フィルム化することも一考ではないか。
・胸が痛みました。平和な世の中が続き、世界中から争いがなくなってほしいと思います。
・自分の祖父は戦死しており、会ったことのない祖父の生活がみえた感じがしました。歴史をしっかりつないでいくことの大切さを思い、それが言葉で伝えていけるうちに、しっかりと子ども世代に伝えていこうと思いました。
・戦争のことも学ぶことができて、昔の吉川のことも知ることができて学びが多くありました。
・実際に近くで展示物が見れて、とても貴重な体験ができました。
・大変に貴重な資料ばかりで、戦後 80 年の節目に相応しい展示になったと思います。
・伝単(ビラ)はじめて見ることができました。出征のぼりの大きさに驚きました。
・写真などで見ることはあってもなかなか実物を目にする機会はないので、貴重な機会をありがとうございました。吉川に爆撃があったことなどこれまで知りませんでした。
・兵士の過酷さがよく分かった。
・いろんな人がいて、いろんな事があって私は戦後に生まれてよかったな。戦争を知らないけど、でもいろんな事を知らなきゃいけないなと思いました。
・歴史をハダで感じることができました。とてもよい展示だった。ありがとうございました。
・今の日本はどうなってしまったのか。このような展示をみて大変申し訳なく思います。
・本物なので、深く感じることができました。来てよかったです。また展示お願いいたします。
・以前、知覧の資料館へ行った事がありますが、やはり実際に戦時中の物を見ると、胸が締めつけられる思いです。今の日本の平和のありがたさを改めて感じました。
・出征のぼり。恋人からの手紙。その他。興味深く見させていただきました。
・資料などがよく残っていたなと思います。

・戦後 80 年を迎えて、今後、新たに戦争体験を本人から聞けることは無くなっていくことを思うと、とても貴重な機会だったと思います。
・戦時下の資料がよく残っていて感心しました。私は戦後生まれですが、この様な展示会はもっとやるべきだと思います。
・国からの展示品がきているというお話に驚きました。各地で有効に活用されているんですね。戦後 80 年すばらしい企画です。平和が続くことを祈るばかりです。
・最近は世界でも戦争が起きていて他人事ではなくなっていると思っていた。今回色々な展示物を見て、改めて戦争していた時代に戻してはいけないと思った。
・展示を見て、亡き父から戦地の事情を聞いておけばよかったと反省しています。
・吉川にも西南戦争に出征した人がいたのか…。吉川でもしょうい弾が落とされて亡くなった人がいたのか…。など、全く知らなかった史実をリアルに知ることができました。
・テレビでしか見たことのない物品を実際に見ることができ、よかったです。
・迫力があり、とてもすばらしかったです。
・本物の迫力に圧倒されました。多くの先人のご苦労があって今があると改めて感じることができました。
・幟の本物は初めてだったので、当時の戦争への思いが、かいま見えた気がします。大変でしたね。
・戦争中の資料(吉川市関連)よくありましたね。
・おあしすに平和の塔があることを初めて知りました。戦時中、戦後のご家族のことを思うと胸がしめつけられる思いでした。平和はあたりまえではないですね。夫が自衛官なので夫を大切にしたいと思いました。
・戦争のお話はおききしたことがありますが、実際にあった展示品などを拝見し(遺族の方のもの)心にしみます。戦争の悲惨さを、まのあたりにしました。まだまだ戦争は終わってはいないと思うことがあります。平和がどんなに大切かを思い知りました。今の平和な日本に感謝する日々ですが、争いのない平和がつづきますよう祈っております。ありがとうございました。
・時の流れが止まったかのように展示品一つ一つに見入ってしまいました。戦地に赴く者、銃後を守るべく気丈に生活された者…。資料から多くの声が、想いが伝わってくるようでした。ありがとうございました。先人の苦労に我々は応えねばならない！と強く感じました。
・市内にこれだけのものが今でも残っていることに驚きです。状態がとても良い状態で残っているのもすごいです。只、これも戦争後期になったらなかなか準備も難しかっただろうと思うと、初期に作った旗なのかなと想像したり……。でもやっぱり戦争はダメです。善も悪もないのですから。
・戦時中も、吉川は余り被害なかったと思っていたが、焼い弾で亡くなった人がいたり、二度と起こしてはならないと思います。
・改めて、戦争はしてはいけないと思いました。
・ドラマの世界でしか見なかったものを実際に見ることができて「本当にあった過去だったんだ」と実感しました。
・風化してはいけないものだと強く思います。
・文化財の保存状態の良さに驚きました。戦争の生々しさが文化財を通して伝わってきました。
・大変参考になりました。知らぬ事多く、勉強になりました。ありがとうございました。

令和7年度　文化芸術を多面的に活用した取組状況（実績）

	部署	事業名	実施状況	実施時期	回数・参加者数	事業概要	地域の課題	工夫した点	効果	中止・延期の場合の理由 今後の実施見込み
1	生涯学習課	文化芸術振興事業 「演劇公演」	実施	演劇公演 令和7年8月23日・24日	参加者31名 （市民等24名（出演19名・スタッフ5名）・プロ7名） プレビュー・本番3回公演、観覧407名	子どもから大人、障がいを有する方など、多様な参加者が演劇プロジェクトに参加し、文化芸術の振興にとどまることなく、生きがいづくりなどの演劇の波及効果が期待できる場を提供した。	①「文化芸術に触れあう機会への取り組み」に対して、市民意識調査では３人に１人が不満を感じており、文化芸術の振興対策が必要である。 ② 高齢化や共働き世帯の増加、都市開発により地域コミュニティが形成途上であり、住民同士のふれあう機会が必要である。 ③ 高齢化に伴い介護需要が増加しており、高齢者が介護を受けずに健康を維持するための取り組みが必要である。 ④ 子どもたちが自立心に富み、志をもって生涯にわたって自己実現と社会貢献を行えるように、学力・体力・非認知能力向上のプログラムの充実を推進していく必要がある。	① 市内在住者だけでなく、市内で働く方々に対しても、市の取り組みを知っていただくため、協賛金の募集と合わせて企業への周知活動を実施した。 ② 舞台への出演に限らない多様な関わり方としてスタッフ（広報物、舞台関連）を募集し、自身の得意なことを活かして参加できるようにした。	発表と鑑賞の機会の充実により、文化芸術に触れる機会を創出し、文化芸術の振興が図られる。 地域コミュニティの形成や郷土愛の醸成、高齢者の認知症予防、生きがいづくりなどが期待できる。 障がいをお持ちの方等が自らの得意なことを活かして参加することで、共生社会実現の機運醸成が期待できる。	
2	生涯学習課	文化芸術振興事業 「ハイク👣探検団」	実施	ハイク👣探検団 令和7年9月28日	6名	子どもたちが吉川市の風土と歴史を体験し、日本語の響きやリズムに親しむ俳句をとおして郷土愛を育み、文化芸術の振興を図る。	① 市外からの転入により市の人口は増加しているが、自ら住む地域のことをよく知らない住民が増えている。 ② 共働き世帯の増加、都市開発により地域コミュニティが形成途上であり、住民同士のふれあう機会が必要である。	① 文化連盟所属の俳句協会協力のもと、地域人材と連携し、子ども達が俳句を学ぶことにより、多世代交流を行っている。 ② 散策場所についても、市の名所を選定し、市の風土や歴史に触れることで、郷土愛の醸成を図っている。	地域人材との交流を通じた地域コミュニティの形成や、吉川の地域文化などを散策しながら学ぶことで、自らが住む地域への理解が深まり、郷土愛の醸成が期待できる。	
3	生涯学習課	放課後子ども教室事業 「放課後子ども教室」	実施	①生け花教室 令和7年11月17日 ②折り紙教室 令和8年1月26日	①42名 ②16名	三輪野江小学校の児童を対象に、放課後の安心・安全な居場所を確保するとともに、様々な体験型学習により子どもの健全育成を図る。	① 急速な高齢化や技術革新が進むなか、子どもたちが志をもって生きていけるよう、学力・体力・非認知能力の向上を目指したプログラムを実施していく必要がある。 ② 共働き世帯の増加、都市開発により地域コミュニティが形成途上であり、住民同士がふれあう機会が必要である。	① 文化連盟所属の華道協会の協力のもと、地域人材との連携の中で、子ども達が生け花を学ぶプログラムを開催する。 ② 新たなプログラムとして、日本の伝統文化の一つである折り紙に親しむ機会を提供し、創作活動を通じて集中力、忍耐力や思考力といった非認知能力の向上を図る。	地域人材との交流を通じた地元への愛着形成が期待できる。 技術革新が進む中、生け花や折り紙といった日本の伝統文化に触れて心の感性を磨くとともに、創作活動を通じて観察力、考える力、集中力、忍耐力などの非認知能力やコミュニケーション能力、表現力といった伝える力の向上が期待できる。	
4	地域福祉課	更生保護活動支援事業「第75回吉川市“社会を明るくする運動”大会」	実施	令和7年7月6日	参加者140名（一般25名、関係団体27名、警察音楽隊30名、来賓6名、越谷地区保護司会吉川支部会12名、吉川地区更生保護女性会30名、市10名）	犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について、理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪防止及び青少年の非行防止と明るい吉川市を作ることを目的とし、大会を実施。 “社会を明るくする運動”作文コンテスト受賞作品の朗読・表彰や埼玉県警察音楽隊による演奏などを行った。	犯罪や非行をした人が社会の中で立ち直り、自立することは難しく、再び罪を犯してしまう人も多い。地域社会の安全のためにも、犯罪や非行をした人の立ち直りのためにも、更生保護の理念の浸透を図り地域全体の理解と協力を得る必要がある。	社会から取り残され、孤独・孤立を抱えた方が犯罪に走らないように。地域社会で誰も取り残さないように。そんなメッセージを込めて、老若男女問わず誰もが楽しめるような楽曲を演奏していただいた。参加者も手拍子や掛け声などを通して一体となり、大会趣旨の浸透を図ることができた。	地域社会で誰も取り残さないようにというメッセージ性が込められた演奏により、参加者の更生保護活動への理解の促進が期待できる。	
5	障がい福祉課	障がい者アート展	実施	令和7年9月3日～ 令和7年9月11日	イラスト24作品 写真7作品、 工作13作品、 投票総数296票	障がい者福祉に対する市民の理解促進を目的として、イラスト、写真、工作の３部門で作品を募集し、市役所に展示した。作品の投票を実施し、優秀作品に優秀賞、市長賞、特別賞を贈呈する表彰式を行った。	障がい者の社会参加や自己表現の場が限られていることで当事者の日常や才能が見えにくい現状から、障がい者への理解を深めるきっかけとなる取り組みが必要である。	市役所入口のコミュニティルームで作品展示を行うことで、市役所に諸手続きで来庁された方にも気軽に作品を見てもらえるようにした。また、優秀作品を障がい者理解啓発物品（クリアファイル）のデザインに活用するとともに、屋内スポーツ大会会場に展示した。	障がい者の潜在的な表現力や芸術性が発揮されることが期待できる。	
6	障がい福祉課	屋内スポーツ大会	実施	令和7年12月7日	参加者140名	ルールや道具を工夫してボッチャなどのスポーツを楽しむだけでなく、会場に障がい者アート展の優秀作品の展示や、障がい福祉事業所による販売を行ったことで、障がいのある人もない人も交流できる場を創出した。	障がい者の社会参加や交流の場が限られていることから、障がいのある方もない方も関係なく集まり、交流ができる機会の提供が必要である。	事前申込制のボッチャ・ふうせんバレーボール大会以外に、事前申込不要で誰もが気軽に参加できる5種類のスポーツ体験会を実施した。	障がいのある方もない方も、子どもからお年寄りまで交流できる場を創出し、共生社会の実現を目指すことが期待できる。	
7	子育て支援課	未来の輪よしかわ～ふるさとを愛し、共に未来へはばたこう～市長応援メッセージ事業	実施	令和7年8月18日	5人	市長や大人たちと、アート作品の制作を通じてふれあうことで、子どもたちが「吉川に住んでいてよかった」と感じ、自分らしく未来へはばたくために、市長からひとり親家庭等の子どもにメッセージを送付した。	子どもの貧困対策を据えて、ひとり親家庭等の子どもが文化芸術に触れる機会を創出する必要がある。	アート作品の制作が市長や大人たちとの交流のきっかけとなるよう、取り組みやすいテーマを用意し、共に制作を行った。	将来への希望を抱き、郷土愛が育まれることが期待できる。	

令和7年度　文化芸術を多面的に活用した取組状況（実績）

	部署	事業名	実施状況	実施時期	回数・参加者数	事業概要	地域の課題	工夫した点	効果	中止・延期の場合の理由 今後の実施見込み
8	児童館	なまずのぼり作成・展示	実施	募集：令和7年6月 展示：令和7年6月下旬～7月中旬	–	主に未就園児向け事業の題材として取り入れ、なまずのぼりに思い思いの色を塗り制作した。	市民意識調査において、特産であるなまずを自慢できるものとして評価する声がある一方でネガティブな認知をしている声もある。	なまずのぼりを未就園児や小学生をはじめとした児童館の来館者が制作し、市の特産品のひとつであるなまずに親しみや関心を持つきっかけづくりとした。	なまずのぼりを思い思いの色で塗るという芸術に親しみながら制作することにより、郷土愛が育まれることが期待できる。 市外からの転入者や乳幼児、中高生といった幅広い対象へ市の特産品であるなまずの周知が期待できる。	
9	児童館	ワンダー七夕まつり	実施	令和7年7月5日	1回・31人	近年では触れる機会の少ない本物の竹に、「7月2日はなまずの日」となまずのシルエットが描かれた短冊に願いごとを書いて飾った。	市民意識調査において、特産であるなまずを自慢できるものとして評価する声がある一方でネガティブな認知をしている声もある。	未就園児や小学生をはじめとした児童館の来館者が短冊を書くことで、市の特産品のひとつであるなまずに親しみや関心を持つきっかけづくりとした。	なまずにちなんだ短冊を書くことにより、季節行事に参加しながら郷土愛が育まれることが期待できる。 市外からの転入者や乳幼児、中高生といった幅広い対象へ市の特産品であるなまずの周知が期待できる。	
10	児童館	未来のワンダーランド大型絵画作成	実施	作成時期：令和7年8月 除幕式：11月9日	-	令和6年に「未来のワンダーランド絵画コンテスト」を実施。全11作品の応募があり、最優秀賞、優秀賞、市長賞、館長賞を選定した。 最優秀賞を受賞した「子供にとっての夢の場所」は、児童館のシンボルとして永続的に展示することがふさわしい作品であったことから、大型絵画（F80サイズ）として制作者本人が仕上げ、来館者の誰もが見ることのできるキャラリーに展示した。	こどもが自分の思いやアイデアを表現し、それが反映される経験は自己肯定感や自己有用感、社会の一員としての主体性を高めることにつながることから、意見の表明や社会に参画しやすい環境づくりを行うことが必要である。	絵画コンテストを一過性のイベントとして終わらせることなく、地域課題の解決や児童館のシンボルとして展示することにまで昇華させた。	本方針が目的とする文化芸術の推進に寄与するほか、児童館の設置目的である児童の健全育成に資することができる。	
11	児童館	吹奏楽コンサート	実施	令和7年9月21日	1回・36名	市職員が率いる社会人吹奏楽団による吹奏楽の演奏を開催した。 開催当日は児童館を訪れていた多くのこどもたちが吹奏楽を楽しむと共に、それぞれの楽器の特徴について団員から紹介があり、こどもたちが強い関心を示していた。	地域コミュニティが希薄化する中、児童健全育成の拠点として児童館を利用する子どもが地域住民と直接交流できる機会を設けるなど、地域全体で健全育成を進める環境づくりに努める必要がある。	社会人吹奏楽団が奏でる本格的な音楽に触れ、芸術活動のひとつである音楽の魅力を多くのこどもたちに実感してもらう場とした。	児童館の目的である情操の養成など、これから地域を担うこどもたちの健全育成に資すると共に、社会人吹奏楽団が奏でる本格的な音楽に触れ、音楽の魅力を多くのこどもたちに実感してもらう機会となった。演奏中はこどもたちが音楽にあわせて自然にダンスを始めるなど、大いに盛り上がった。	
12	児童館	埼玉県民の日スペシャル「勾玉づくり」	実施	令和7年11月14日	1回・13名	県民の日にちなんで、勾玉を制作した。 また、県内の名所や著名人が記載されている郷土かるたや、県の3億人のひとりである事業家渋沢栄一の生涯を追体験できるボードゲームなども実施した。	職住分離が一般的に有り得る現代において、自らが生まれ育った地域への理解やシビックプライドの醸成を懸念する声がある。	滑石を削ることができれば誰でも制作できるため、勾玉づくりをとおして埼玉県民としての郷土愛を育むきっかけづくりとした。	楽しみながら勾玉を制作することにより、郷土愛が育まれることが期待できる。	
13	児童館	ねぎらいの日「感謝のネギづくり」	実施	令和7年11月23日	1回・11名	勤労感謝の日にちなんで、大切な人への感謝の気持ちを記すメッセージカードを制作する「感謝のねぎづくり」を実施。 ねぎの色を印刷した感謝状にメッセージを添え、巻いてネギに見立て、出荷時に巻かれる紫色のテープで留め、贈り物にした。	家庭や地域のコミュニティなど、身近な人に対し、必ずしも日頃からのコミュニケーションが十分であるとは言い切れない。特に、児童館を利用するこどもたちにとっては大切なことでありつつも、学校以外での多忙化などもあり、他者への日頃からの感謝を含めたコミュニケーションの在り方を再考する時代となっている。	こどもたちが気軽に参加して楽しめるよう、比較的簡単な方法で「感謝のねぎ」を制作できるよう制作手順に工夫を図った。また、市の特産品であるねぎのイラストを特別に描いた「フォトブース」の設置、吉川ねぎをPRする吉川ねぎ夫にも登場してもらい、場を盛り上げた。	児童館の目的である情操の養成として、感謝を示す贈り物を制作することで、これから地域を担うこどもたちの健全育成に資すると共に、地域の特産品を知ることで郷土愛が育まれることが期待できる。	
14	児童館	クリスマスコンサート	実施	令和7年12月21日	1回・37名	市職員の有志で編成された吉田バンドによるこどもも大人も楽しめるクリスマスコンサートを開催した。 併せて、市内就労継続支援B型事業所吉川フレンドパークの手づくりクッキーをクリスマスプレゼントとして配布した。	地域コミュニティが希薄化する中、児童健全育成の拠点として児童館を利用するこどもが地域住民と直接交流できる機会を設けるなど、地域全体で健全育成を進める環境づくりに努める必要がある。	地域のこどもたちに喜びを提供できる志ある方々が奏でるアットホームな音楽の魅力を、多くのこどもたちに実感してもらう場とした。	演奏に合わせて参加者みんなで一緒に踊ることにより、会場全体で一体感のある交流の機会が得られるほか、福祉事業所で手づくりされたクッキーをとおして多様性を理解し、共生社会の実現を目指すことが期待できる。	
15	長寿支援課	いきいき運動教室等予防事業 「いきいき運動教室」	実施	令和7年4月～令和8年3月	全18回、723人	いきいき運動教室において、参加者を対象に芸術（演劇）の要素を取り入れたプログラムとして「表現伝達ゲーム」を実施。	生涯にわたって自分らしく、いきいきと元気に過ごすための健康づくりと介護予防が必要である。	ゲーム的要素で皆が楽しめるよう進めた。	芸術（演劇）の要素を取り入れたプログラムを取り入れることでマンネリ化防止を図り、楽しみながら介護予防教室を実施することが期待できる。	
16	長寿支援課	いきいき運動教室等予防事業 （男性のための運動教室）	事業実施、活用未実施	令和7年4月～令和8年3月		男性のみが参加できるコースを増設し、実施。（今年度は実施回数が少ないため、運動重視。来年度から芸術（演劇）の要素を取り入れたプログラムも実施	生涯にわたって自分らしく、いきいきと元気に過ごすための健康づくりと介護予防が必要である。		芸術（演劇）の要素を取り入れたプログラムを取り入れることでマンネリ化防止を図り、楽しみながら介護予防教室を実施することが期待できる。	今年度は実施回数が少ないため、運動重視。来年度から芸術（演劇）の要素を取り入れたプログラムも実施

令和7年度　文化芸術を多面的に活用した取組状況（実績）

	部署	事業名	実施状況	実施時期	回数・参加者数	事業概要	地域の課題	工夫した点	効果	中止・延期の場合の理由 今後の実施見込み
17	長寿支援課	地域型介護予防事業「介護予防パズル」	実施	令和8年3月1日から配布	1回(10,000部作成)	市オリジナルの介護予防パズル冊子を作成し、市内在住の高齢の方へ配布。	生涯にわたって自分らしく、いきいきと元気に過ごすための健康づくりと介護予防が必要である。	文化芸術要素を取り入れた問題を取り入れた。	介護予防パズルを配布することで、脳をトレーニングする介護予防の啓発・促進することが期待できる。	
18	老人福祉センター	ぱれっとシアター	実施	令和7年8月30日	20名	映画鑑賞	生涯にわたって自分らしく、いきいきと元気に過ごすための健康づくりと介護予防が必要である。	邦画を中心に、耳が遠い方のために字幕付き上映を行った。	高齢者が文化・芸術に触れる機会をもつことができる。	
19	老人福祉センター	ぱれっと音楽会	実施	令和7年7月13日	出演者25名 参加者39名	吉川吹奏楽団による演奏会	生涯にわたって自分らしく、いきいきと元気に過ごすための健康づくりと介護予防が必要である。	地域の団体による演奏会をおこなうことで、地域交流も図った。	高齢者が文化・芸術に触れる機会をもつことができる。	
20	老人福祉センター	新春演芸大会	実施	令和8年1月	2日間 演者219名 観覧151名	利用者による歌、踊り、楽器などの演芸大会	生涯にわたって自分らしく、いきいきと元気に過ごすための健康づくりと介護予防が必要である。	演者及び観覧の募集を広報等で行い、多くの方に参加していただいた。	高齢者が文化・芸術に触れる機会をもつことができる。	
21	老人福祉センター	ぱれっとサロン	実施	令和7年4月から令和8年3月	50回 1,963名	毎週木曜日に行っているサロンにおいて、ジェスチャーゲーム、お茶会など芸術文化の要素を取り入れている。	生涯にわたって自分らしく、いきいきと元気に過ごすための健康づくりと介護予防が必要である。	参加者の年齢、能力なども考慮し、様々な内容を企画、実施した。	高齢者の居場所となるとともに、地域の方に講師として参加していただく機会を持つことができた。	
22	市民参加推進課	平和関連事業「平和のつどい」	実施	令和7年8月2日	113名	市民の方を対象に「音楽」や「朗読劇」など文化芸術による表現を取り入れた平和イベントを開催し、戦争の悲惨さと平和の尊さを考える機会を提供した。	戦争の悲惨さ平和の尊さを若い世代に伝えていくために、若い世代の参加を促していく必要がある。	平和の朗読は吉川演劇プロジェクトの有志7名に協力をいただき実施を行った。 戦争の悲惨を伝えるため昭和館から語り部を招き講話を実施した。	多世代の参加者が広がることで、平和への関心が高まることが期待できる。	
23	市民参加推進課	男女共同参画・人権推進事業「女性と文化芸術“わたしらしさ”フォーラム」	実施	令和8年2月15日	70名	市民の方を対象に上方落語家露の眞（つゆのまこと）氏による落語・講演と、吉川市内で文化芸術の分野で活躍されている女性たちによる「女性と文化芸術」をテーマとした座談会を実施する。	人権尊重・擁護の気持ちを市民が待てるよう、啓発を行っていく必要がある。	市民がより関心を持てるよう、市民が聞き慣れている江戸落語家ではなく、上方落語家を招いた。 座談会にも露の眞氏に参加いただくことで、登壇者の層を厚くしより多彩な座談会になるようにした。	講演会を通して、「性別に関わらず、自分らしく生きる」ことについて、興味関心を深める場となった。また、座談会の内容を基に3月末に男女共同参画啓発紙「女性と文化芸術」を発行。市HPで公表および市内公共施設に配布したことで、市民の方へ広く周知・啓発することができた。	
24	商工課	なまずのぼり作成（紙）	実施	作成R7.4月下旬～5月下旬 展示R7.6.19～7.10	小学4年生全児童653名	市内小学校4年生に作成を依頼し、出来上がったものを市役所庁舎、おあしす、中央公民館に展示した。なまずのぼりの作成案内チラシには、市内のなまず飲食店を案内することで、吉川のなまず食文化についても説明。お礼として、なまずの日周知の記念品を贈呈。	①市外からの転入により市の人口は増加しているが、自ら住む地域のことをよく知らない住民が増えている。 ②市民意識調査では、２人に１人が「吉川市に活力とにぎわいがない」と感じている。	-	郷土愛が育まれることが期待できる。	
25	商工課	ものづくり体験教室「なまずのぼりをみんなで作ろう！」	実施	実施日 おあしす祭り R7.10.18 キャンプ fes.R7.11.9 産業フェアR7.11.23	-	産業フェア等の開催にあわせ、市内事業者と連携し、「なまずのぼりへの絵付け体験」を実施、ものづくり体験を通じた市への愛着心の醸成や市内事業者の周知となった。	①市外からの転入により市の人口は増加しているが、自ら住む地域のことをよく知らない住民が増えている。 ②市民意識調査では、２人に１人が「吉川市に活力とにぎわいがない」と感じている。	市主催の産業フェアだけでなく、よしかわ子育てネットワーク及びNPO法人あおいはるに協力いただき、それぞれの主催事業において多様な方々の参加をいただいた。	郷土愛が育まれることが期待できる。	
26	商工課	よしかわ観光協会フォトコンテスト	実施	募集 R7.6.2～8.8 展示 イオンタウン吉川美南 R7.10.6～11.11 カインズ吉川美南店 R7.12.10～ 表彰式 R7.11.23	88作品	吉川の魅力～吉川の昔とこれから～をテーマに写真を募集。応募作品88点の中から16点を選定し表彰及びカレンダーを作成。また、作品をイオンタウン吉川美南等に展示した。	①市外からの転入により市の人口は増加しているが、自ら住む地域のことをよく知らない住民が増えている。 ②市民意識調査では、２人に１人が「吉川市に活力とにぎわいがない」と感じている。	作品を見てもらう機会を増やすために、新たにカインズ吉川美南店のコミュニティスペースに展示した。	郷土愛が育まれることが期待できる。	
27	学校給食センター	ベートーヴェン献立給食	実施	令和8年2月24日	１回　6,500人	吉川市生音コンサートにちなみ、コンサートで演奏予定の楽曲に関連した学校給食の提供	「文化芸術に触れあう機会への取組」に対して、市民意識調査では３人に１人が不満を感じており、文化芸術の振興に向けた対策が求められている。そのため、文化芸術に関心を持つきっかけとなるような情報発信や接点を創出する工夫が必要となっている。	ベートーヴェンの好物と言われている食材（マカロニ、チーズ、赤ワイン）を使った学校給食を市内小中学校で提供した。	給食を通して、クラッシック音楽を身近に感じ、興味関心を持つことができた。	

令和7年度　文化芸術を多面的に活用した取組状況（実績）

	部署	事業名	実施状況	実施時期	回数・参加者数	事業概要	地域の課題	工夫した点	効果	中止・延期の場合の理由 今後の実施見込み
28	市立図書館	「浦上秀樹　こころMoji展」	実施	①ミニコーナー 著書、関連書展示 令和7年5月28日～9月23日 ②作品展示 令和7年8月28日～9月23日 ③アートパフォーマンス 令7年9月13日、14日	アートパフォーマンス参加者 9月13日70名 9月14日35名	難病を抱えながら、こころMojiのパフォーマンスを行う浦上氏の姿と作品を多くの市民に紹介し、芸術への興味関心を高め、また、障がい者への理解を深めるきっかけとする。	障がい者との共生を図るために、もっと身近に障がいを持つ人と触れ合う機会が必要。	浦上さんの認知を図るため、4か月前からミニコーナー展示、2週間前からブラウジングコーナーでの作品展示と段階を踏んで、興味関心を高めていき、パフォーマンスの動員につなげることが出来た。	・参加者のアンケートでは「病気と闘いながら芸術を生み出す姿に感動した」との声を多数頂いた。 ・表現することの尊さ、ハンデイキャップに立ち向かう勇気を多くの人に与えてくれた。	
29	市立図書館	バリアフリー映画会	実施	令和7年11月8日	22名	「音声ガイド」と「日本語字幕」が付いている図書館所蔵のDVDを上映することで、一般の方だけでなく、視覚、聴覚に障がいがある方にも、映画を楽しんでいただく。 ・上映作品『Coda（コーダ）あいのうた』（2021年米作品）第94回アカデミー賞作品賞・助演男優賞、脚色賞受賞）	健常者向けのイベントが多く、視覚や聴覚に障がいのある方が文化芸術を楽しめる機会は限られる。多様な参加者が一堂に文化芸術を楽しめる場をつくることで、共生意識を育み、多様性への理解を深めることが求められる。	・本作品は、聴覚障害を抱える家族を支える少女を力強く描いた作品で、実際に聴覚障害の俳優3名（父、母、兄の役）が演じており、バリアフリー映画会に相応しいと考え、選択した。 ・動員、周知を図るため、障がい福祉課、社会福祉協議会に、ポスター、チラシを持参し協力を依頼した。	・参加者は22名と少なかったが、障がいのある方も数名参加された。 ・アンケートで「耳が聞こえないけれど、わかりやすくとてもよかった」との感想を戴いた。 ・健常者の方が、障がいについての理解・関心を深める貴重な機会となった。	
30	市立図書館	新春落語会	実施	①落語関連書展示 令和7年11月26日～令和8年1月28日 ②落語会 令和8年1月12日	落語会参加者163名	スウェーデン出身の三遊亭好青年（二ツ目）、桂しゅう治（前座）の2名の落語家による落語会。古典芸能に親しむ機会を作る。	外国人住民や異なる文化背景の住民が増えており、多文化共生を考える機会が必要である。	・吉川市民がプロの落語家の話芸に身近に触れることができるよう、「図書館でプロの落語を堪能してもらう」機会を提供し続けて14回続いている。 ・以前は7年連続で同じ落語家だった時期もあるが、現在は、タイプの違ういろいろな落語家の芸を見てもらう為、2～3年で演者を変更している。 ・今年度は、多文化共生の観点から、三遊亭好青年に依頼した。	・今年は、昨年（113名）を大きく上回る163名が参加して戴いた。初めて落語を聞く方から、常連の方まで、大いに笑い、温かい目で落語を楽しんでくれた。 ・三遊亭好青年さんは、母国のスウェーデン語を交えた落語も披露し、笑いの中に「多文化共生」を考える契機ともなった。 ・落語を聞くことで、江戸時代の庶民の文化、生活に興味を抱き図書館資料の貸出に繋がったり、他の古典芸能にも関心を広げていくきっかけともなった。	
31	市立図書館	「吉川市で生まれたモンゴルの絵本」	実施	①原画展 令和8年1月28日～3月25日 ②講演会 令和8年3月15日	講演会参加者40名	モンゴル人絵本作家夫妻・ガンバートルさん（文）、ボロルマーさん（絵）、そして訳の津田紀子さんの3人による講演会、原画展を開催し、絵本を通じてモンゴルへの関心を深める。	①外国人住民や異なる文化背景の住民が増えており、多文化共生を考える機会が必要である。 ②郷土吉川に誇りを持ち、シビックプライドを醸成する機会が必要である。	・2年越しでスケジュールを調整し、かつて吉川に住んでいたモンゴル人作家夫妻と、吉川市在住の翻訳家の津田さんの3名の原画展、講演会を実現させた。 ・イベントの為に描き下ろした『川と緑に囲まれて』をポスターに使用した。 ・絵本原画１５点は、子どもの目線に合うよう、絵画コーナーに展示。他に絵画８点、ダチョウの卵、アートストーン、馬頭琴などを展示した。 ・おはなし室には、ゲルを模したフォトスポットを設営した。	・ボロルマー、ガンバートル夫妻が、吉川にお住まいだったこと、訳者の津田さんが吉川市在住であることの認知が広まり、郷土吉川への愛着を深めてもらう一助になった。 ・モンゴル語での読み聞かせ、モンゴル自然の厳しさ、遊牧民の暮らしなどの講演、参加者全員で行ったモンゴルすごろくを通じて、モンゴルという国を知ることができ、多文化共生を考えるきっかけとなった。 ・『川と緑に囲まれて』の原画を吉川市に寄贈いただき、現在は市立図書館の入口壁面に飾っている。市民がいつもモンゴル人作家を身近に感じられるようになった。	
32	市民交流センターおあしす	市民交流センターおあしす等管理事業 「あつまれ！放課後子どもクラブ」	実施	令和7年4月26日～令和8年3月22日　毎月1回	12回・362名	放課後や休日における子供たちの居場所つくりとして施設を開放。工作や昔遊びなどをつくる。	子ども達が多くの時間を過ごす家庭や学校以外の場所で、子どもたちの自立心を育みながら、非認知能力向上のプログラムの充実を図っていく必要がある。	毎回テーマを考え、子どもたちに日本の季節を感じてもらえるような内容を考えて企画した。	創作を通じて、集中力、発想力、創造力の向上や、形や色で自分の気持ちを表現することで伝える力の向上も期待できる。 親子でも参加可能であり、コミュニケーションを図りながら創作をすることで、家庭教育力の向上も期待できる。	
33	市民交流センターおあしす	市民交流センターおあしす等管理事業 「おあしす祭り＆市民活動まつりわくわくタウン」	実施	令和7年10月18日	2,500名	サークル発表会、作品展示、軽食販売など世代を超えて、人々のふれあいを高める場を提供するイベント。	地域コミュニティの希薄化が進む中、市民活動の活性化を図り、住民同士のふれあう機会を充実していく必要である。	おあしす祭りと市民活動まつりわくわくタウンを同時開催することで、相乗効果を狙った。また、シルバー人材センターまつり、よしかわマルシェも誘致し、より地域密着を意識したお祭りとした。	発表機会の提供による市民活動の活性化や、市民の鑑賞機会の充実により、文化芸術の振興が図られる。	

令和7年度　文化芸術を多面的に活用した取組状況（実績）

	部署	事業名	実施状況	実施時期	回数・参加者数	事業概要	地域の課題	工夫した点	効果	中止・延期の場合の理由 今後の実施見込み
34	市民交流センターおあしす	市民交流センターおあしす等管理事業 「歌声ひろば」	実施	令和7年9月27日～令和8年2月28日　月1回	6回・166名	童謡・唱歌・フォークソングなど懐かしの流行歌を参加者で一緒に歌い、発声による健康増進を図る。	①地域コミュニティの希薄化が進む中、住民同士がふれあう機会の充実を図る必要がある。 ②高齢化に伴い介護需要が増加しており、高齢者が介護を受けずに健康を維持するための取り組みが必要である。	休憩時間に手話の歌や脳トレを実施したり、参加者が飽きない工夫をした。	演奏に合わせて一緒に歌うことで、参加者による新たな交流の創出や、指導を受けながら発声や表現を実践することで、認知症の予防、健康増進などの効果が期待できる。	
35	市民交流センターおあしす	市民交流センターおあしす等管理事業 「大人のための音楽会」	実施	令和7年12月21日	197名	JAZZの調べと題して、気軽に普段着で楽しめる音楽会を定期的に開いていこうという企画。	地域との接点が少ない現役世代や、定年後や子育て後に社会との接点が減ってしまう世代に向けて、交流のきっかけとなる場が必要である。	市民の方をメインボーカルに据えることで、より地域密着を意識し、近隣の方に多く参加いただけるように配慮した。 ・曲の合間に各出演者をフォーカスするコーナーを設けて、文化芸術をより身近に感じてもらえるように配慮した。	鑑賞機会の提供により、文化芸術の振興が図られるほか、地域人材の活躍の場の創出により、シビックプライドの醸成に寄与することが期待できる。	
36	市民交流センターおあしす	市民交流センターおあしす等管理事業 「ケニア伝統弦楽器Liveコンサート＆講演会」	実施	令和8年3月7日	142名	ケニア伝統楽器ニャティティの世界初の女性演奏家であるアニャンゴさんのコンサート＆講演会。	外国人住民や異なる文化背景の住民が増えており、多文化共生を考える機会が必要である。	・多文化を理解するために、市民の方がなかなか触れ合うことのないケニア伝統楽器を披露する。 ・伝統楽器の世界初の女性演奏家という部分をアピールした。 ・演者のかけ声のもと、手拍子や体を動かしてのリズムダンス等で、聴くだけでなく一緒に参加できるようにして、ケニア伝統楽器の理解を深めた。	ケニア伝統楽器を演奏を通じて、多文化共生を理解でき、鑑賞機会の提供により、文化芸術の振興が図られる。	

【参考：民間事業者による取り組み】

	商工課	ル ｼｮｺﾗ ﾄﾞｩ ｱｯｼｭ みんなの将来の夢 絵画コンテスト （市、市教後援事業）	実施	募集 R7.9.29～10.15 展示 R7.10.31～12.21 表彰式 R7.11.30	1,382作品	イオンタウン吉川美南・ル ショコラ ドゥ アッシュにより、小学生を対象に「将来の夢」をテーマとする絵画コンテストの実施。事業を通じ、子どもたちの独創性や想像力を養うとともに、将来の夢作りや就業を身近に感じてもらうことを目的として実施。（市、教育委員会後援事業）	－	－	自由な発想から生まれる将来の夢（就業意識）の形成及び郷土愛が育まれることが期待できる。	